



NIAS (機能制限ライセンス) 簡易設定ガイド **(Windows Server IoT 2022 for Storage)**

iStorage NS シリーズ

70.005.01-065.02

2024 年 6 月

© NEC Corporation 2024

商標について

- Windows、Internet Explorer、Hyper-V、Excel、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、Pentium は、米国 Intel 社の商標または登録商標です。
- PostgreSQL は PostgreSQL グローバル開発チームが著作権を有し、カリフォルニア大学のライセンスの元に配布されています。
- Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。
- Apache Tomcat、Tomcat は、The Apache Software Foundation の商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

略語・用語について

- Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
- NIAS は、NEC Information Assessment System の略称です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書の内容および本書を使用した結果について明示的にも黙示的にも一切の保証を行いません。

目次

1. はじめに	1
1.1 概要	1
1.2 NIAS のプレインストールに伴う各種変更	2
1.2.1 NIAS プレインストールにより変更している OS 設定	2
1.2.2 NIAS と共にインストールされる OSS ソフト	2
1.2.3 注意事項	3
1.3 諸元	4
1.3.1 ディスク使用量	4
1.3.2 必要なメモリ量	4
1.3.3 NIAS の検査時間	5
1.3.4 NIAS 使用ポート	5
2. NIAS を導入する	6
2.1 NIAS の導入を検討する	6
2.2 NIAS 対象のボリュームを作成する	6
2.3 シャットダウンのタイムアウト時間を変更する	6
2.4 NIAS を設定する	7
2.4.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する	8
2.4.2 グループを作成し共有を登録する	9
2.4.3 実行可能時間帯と検査スケジュール	14
2.4.3.1 実行可能時間帯を設定する	14
2.4.3.2 検査スケジュールを設定する	16
2.5 ウイルス対策ソフトの除外設定を行う	18
3. NIAS を運用する	19
3.1 既存のグループに共有を追加するには	19
3.2 新しいグループを作成し共有を追加登録するには	20
3.3 検査のスケジュールを変更するには	20
3.4 検査対象を増やすには	21
3.5 シャットダウンのタイムアウト時間を変更するには	22
3.6 Administrator のパスワード変更またはコンピューター名の変更を NIAS に反 映するには	23
3.7 ビルトイン Administrator のユーザー名を変更、またはアカウントの無効化を 実施した際の対処	23
3.7.1 名前を変更した Administrator ユーザーにて NIAS サービスを実行する方 法	24
3.7.2 新規ユーザーにて NIAS を実行する方法	25
3.8 NIAS のサービスを無効化するには	26
3.9 NIAS のサービスを有効化するには	26

3.10	NIAS をアンインストールするには.....	27
3.10.1	NIAS サービスの無効化.....	27
3.10.2	NIAS のアンインストール	27
3.10.3	Apache Tomcat のアンインストール	28
3.10.4	NIAS シャットダウンスクリプトの削除.....	28
3.10.5	シャットダウンのタイムアウト時間を OS の既定値に変更.....	29
4.	困ったときは.....	30
4.1	FAQ.....	30
4.2	トラブルシューティング	31

1. はじめに

1.1 概要

NEC Information Assessment System (以降、NIAS と記載) は、ファイルサーバーに格納された情報を最大限に活用するための製品です。ファイルサーバーの検査による、現状把握 (見える化)、格納情報の整理を支援する機能を持ちます。これらの機能を利用して、ファイルサーバーを健全な状態に保つことにより、ファイルサーバーの運用に関わる TCO を削減します。

iStorage NS シリーズでは、NIAS (機能制限ライセンス) をプレインストールして出荷しています。NIAS を使用する場合、NIAS の対象となるボリュームの作成や、スケジュールの設定、NIAS を実行するグループの作成などを行う必要があります。詳細については、【[2. NIAS を導入する](#)】をご覧ください。

NIAS (機能制限ライセンス) では、見える化の機能 (下記画面) のみ利用できます。他の機能は利用することができませんのでご注意ください。詳細については、【NIAS (機能制限ライセンス)利用ガイド 3. 見える化】をご覧ください。

- ホーム画面 . . . ファイルサーバーの見える化の機能を提供する画面です。
- ログ画面 . . . 処理の実行状況を確認する画面です。
- 設定画面 . . . NIAS の設定を変更する画面です。

機能制限ライセンスには 1TB までの容量制限があり、統計検査対象ファイルの合計サイズが 1TB を超えた場合、見える化の機能を利用することができません。

なお、NIAS (機能制限ライセンス) をご使用にならない場合は、NIAS サービスを無効化、あるいは、アンインストールすることができます。

1.2 NIAS のプレインストールに伴う各種変更

1.2.1 NIAS プレインストールにより変更している OS 設定

NIAS をプレインストールすることにより、以下の OS 設定を変更しています。

- シャットダウンスクリプトの追加
シャットダウン実行時の NIAS 管理データ破壊を防ぐため、シャットダウンスクリプトを追加しています。シャットダウンスクリプトでは NIAS のシステムと関連サービスの停止、関連サービス停止完了の監視の処理を行っています。
- スタートアップの変更
サインイン時、NIAS の管理画面が自動的に起動するようにスタートアップを変更しています。自動起動を止めるには、[【4.1 FAQ】](#)の「iStorage NS にログオン時に、NIAS の管理画面が自動起動するのをやめたい」を参照してください。
- NIAS ショートカットアイコンの追加
デスクトップに NIAS のショートカットアイコン(NIAS 管理画面、ライセンスツール)を追加しています。
- 下記の Group Policy Client サービス(GPSVC)のレジストリにて、Administrator のアクセス許可を読み取り (OS デフォルト) からフルコントロールに変更しています。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥gpsvc

1.2.2 NIAS と共にインストールされる OSS ソフト

NIAS のプレインストールに伴い、以下の OSS ソフトがインストールされています。

- Oracle JDK 21
- Apache Tomcat 9
- PostgreSQL 15

上記の OSS ソフトを使用する他のアプリケーションをインストールすると、競合などの問題が発生する可能性があります。そのため、NIAS との共存はできませんのでご注意ください。NIAS をアンインストールする場合は、本書の [【3.10 NIAS をアンインストールするには】](#) を参照してください。

1.2.3 注意事項

- iStorage NS シリーズでは、OS のファイル最終参照時刻の更新が無効となっているため、NIAS において最終参照時刻による分析を行うことはできません。
- データ重複除去機能を利用している領域を NIAS の検査対象にする場合、NIAS の検査時間外に以下の設定を行ってください。なお、ファイル名の拡張子を表示するには、エクスプローラーの上部にある [表示] をクリックし、[ファイル名拡張子] にチェックを入れてください。
 - “C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS\Crawler\ias-crawler.ini” をメモ帳で開き、CrawlSymbolicLinkFlag 設定を「1」に変更し、上書き保存してください。
 - “C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS\Operation\Security\IASAuthorityOperator.ini” をメモ帳で開き、SymbolicLinkFlag 設定を「1」に変更し、上書き保存してください。

ただし、上記設定変更を行うと、検査対象内にフォルダーのシンボリックリンクが存在する環境では、そのシンボリックリンクの先をたどるようになるため、NIAS がファイルを二重カウントし、判断を誤る可能性があります。

1.3 諸元

NIAS 運用に伴う諸元を以下に記載します。

1.3.1 ディスク使用量

NIAS (機能制限ライセンス) では、以下のとおり C ドライブの容量を使用します。

	インストールのみ	運用時
プログラム	約 4.6 GB	約 4.6GB
グループ管理のログ	0 MB	最大約 300MB/グループ
検査対象管理データ	0 GB	約 7.5GB/100 万ファイル

【注意】

C ドライブの空き容量が 0 にならないようご注意ください。なお、OS 動作のため必要となる C ドライブのディスク容量は、搭載メモリ量によって異なります。これは、既定で C ドライブに格納されるページファイル、および、メモリダンプファイルのサイズが、搭載メモリ量の影響を受けるためです。

1.3.2 必要なメモリ量

NIAS (機能制限ライセンス)では、以下の目安のメモリを必要とします。

このとき、パス長を平均 100 文字程度として計算しています。

必要メモリ量 (目安)	管理対象ファイル数
4GB	～ 200 万ファイル
8GB	200 万ファイル ～ 1000 万ファイル
12GB	1000 万ファイル ～ 2000 万ファイル
16GB	2000 万ファイル ～ 4000 万ファイル
24GB	4000 万ファイル ～ 6000 万ファイル

1.3.3 NIAS の検査時間

標準的な NIAS の検査 (ファイルスキャン) 時間の目安は、フルスキャン実行時、100 万ファイルに対して 1 時間です。クイックスキャン実行時は、フルスキャンの 6 割程度の時間で終了します。

1.3.4 NIAS 使用ポート

NIAS では Web ブラウザによる管理画面表示を実装しているため、TCP ポート 8080 を使用しています。なお、リモート PC からの接続は Windows ファイアウォールにより制限しています。

2. NIAS を導入する

2.1 NIAS の導入を検討する

お客様のサーバー運用環境に応じて、NIAS の導入を検討してください。NIAS を使用する場合、本項以下の各項に従い、設定を行ってください。NIAS を使用しない場合は、NIAS のサービスの無効化、または NIAS をアンインストールしてください。NIAS のサービスの無効化を行った場合、CPU やメモリ消費、ディスク負荷には影響は与えませんが、プログラム格納のためのディスク容量消費とサードパーティー製ソフトとの共存に影響があります。この影響を回避する場合は、NIAS をアンインストールしてください。詳細手順は、本書の【[3.8 NIAS のサービスを無効化するには](#)】または【[3.10 NIAS をアンインストールするには](#)】をご覧ください。

2.2 NIAS 対象のボリュームを作成する

NIAS を使用するにあたり、NIAS の対象となるデータボリュームを作成する必要があります。データボリュームを作成する詳細な手順については、製品添付の【管理者ガイド（概要編）ボリュームを作成する】をご覧ください。また、NIAS 検査対象のボリュームサイズの検討時には、本書の【[3.4 検査対象を増やすには](#)】をご覧ください。

2.3 シャットダウンのタイムアウト時間を変更する

OS のシャットダウン実行時の NIAS 管理データの破損を防ぐため、NIAS を安全に停止するためのシャットダウンスクリプトを追加していますが、Windows の初期設定では、シャットダウンスクリプトの処理完了まで 10 分以上かかる場合は、シャットダウンスクリプトの完了を待たずに強制的に OS のシャットダウンが実施されます。このため、NIAS のシャットダウンスクリプトの所要時間が 10 分以上となる場合は、シャットダウンスクリプトの完了を 10 分以上待つように OS の設定を変更する必要があります。

上記の理由により、NIAS の全グループの合計ファイル数が「3000 万以上」の場合は、シャットダウンのタイムアウト時間を変更する設定を行っていただくことを強く推奨します。また、NIAS にて検査や整理を実行中に OS のシャットダウンを開始した場合は通常より処

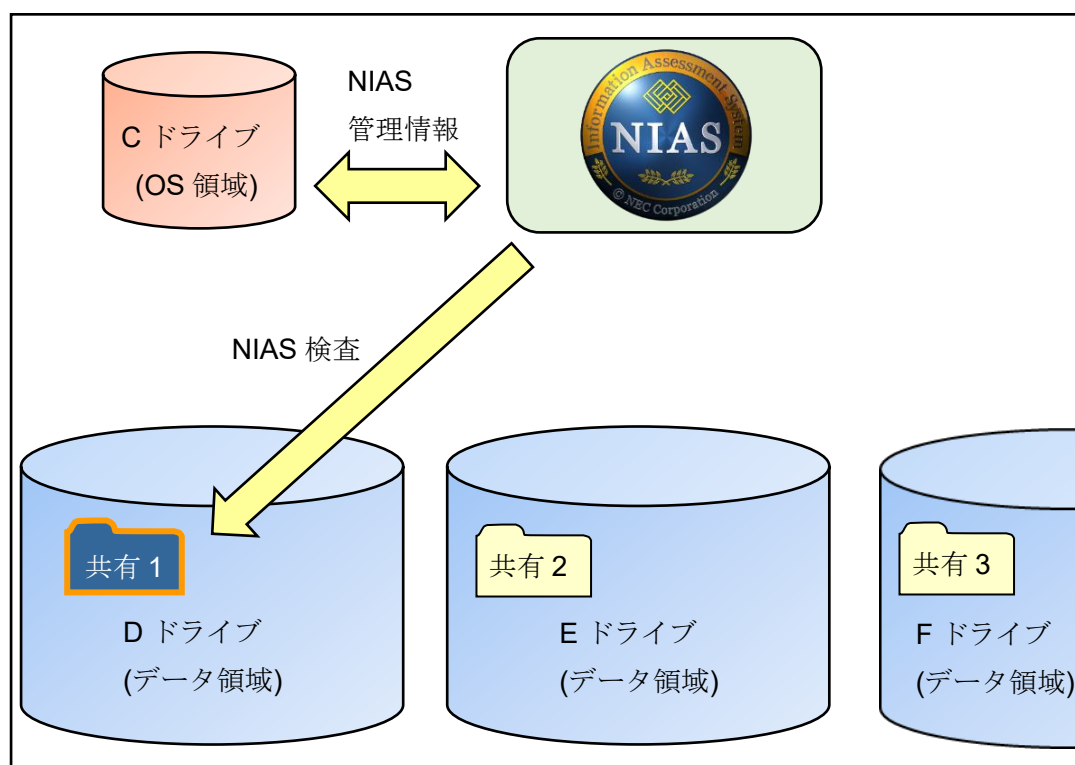
理に時間がかかることもありますので、3000 万に満たない規模でもできるだけ設定していただくことを推奨します。

変更手順については、本書の【[3.5 シャットダウンのタイムアウト時間を変更するには](#)】をご覧ください。

2.4 NIAS を設定する

ここでは、D ドライブにある共有 1 を NIAS の検査対象とする設定例を説明します。

イメージ (例)



[初期設定情報]

iStorage NS シリーズの出荷時における、NIAS 関連の基本設定は、下記のとおりです。

設定項目	設定
NIAS のインストール先フォルダー	C:¥Program Files (x86)¥NEC¥NIAS
NIAS のデータ格納先フォルダー	C:¥NEC¥NIAS_DB
登録している NIAS のライセンス	機能制限ライセンス
容量制限	1 TB
NIAS 管理者ユーザー	niasadmin (パスワード : admin)
NIAS のサービス実行ユーザー	OS のビルトイン administrator (パスワード : スタートアップガイド記載のパスワード)
NIAS が保持している自サーバーのホスト名	各 iStorage NS シリーズのモデル名 または、"iStorageNS"

2.4.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する

以下の手順に従い、iStorage NS の初期設定にて変更した、ビルトイン Administrator のパスワードとコンピューター名を NIAS の設定にも反映してください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、C:¥Program Files (x86)¥NEC¥NIAS¥Tools 配下の NIASNetCfg.exe をダブルクリックします。
2. 起動された下記の画面で、変更後の Administrator のパスワード、および新コンピューター名を入力し、[OK] をクリックします。

NIAS初期設定ツール

※ネットワークのIPアドレスやホスト名、administratorユーザーのパスワードの設定、Active Directoryへの参加等が完了した後、本設定を行なってください。

管理者ユーザー情報を入力してください。

ユーザ名: .¥administrator

パスワード: *****

☐ パスワードを表示する

NIASサーバ(本サーバ)にアクセスする際のホスト名を入力してください。

FILESV1

NIASサーバには「http://<ホスト名>:8080/nias-manager/」でアクセスできます。
ホスト名を入力して「テスト」ボタンを押すと、ブラウザを起動して確認できます。

テスト OK キャンセル

3. “NIAS の設定を入力した内容で更新します” の画面で、[OK] をクリックします。
4. 設定の完了後、“設定が完了しました” の画面が表示されるので、[OK] をクリックします。

2.4.2 グループを作成し共有を登録する

NIAS の検査対象となるグループを作成し、共有を登録する手順を以下に説明します。

1. iStorage NS のデスクトップ上にある、[NIAS 管理画面] のアイコンをダブルクリックして NIAS 管理画面を起動します。
2. NIAS 管理画面のログイン画面が表示されるので、下記を入力し、[ログイン] をクリックします。
ログイン ID : niasadmin
パスワード : admin
3. [設定] のタブをクリックし、左画面で [グループ] を選択して、[グループ登録] をクリックします。



4. [グループ名] にグループにつける名称を入力し、[検査パス] に検査対象にする共有フォルダーのパスを入力して、[次へ] をクリックします。なお、1つのグループには、同一ボリューム上の共有フォルダーを登録することをお勧めします。

NEC Information Assessment System

Menu

- グループ
- エージェント
- スケジュール
- システム管理者
- ファイル種別
- アラーム
- 詳細設定
- メールサーバ
- メモリDB退避
- エイリアス
- 統計履歴
- ログ採取

グループ登録

基本情報 > アカウント情報 > 詳細情報 > 実行可能時間帯情報

グループ情報

グループ名 * Dグループ

ログインID ☐ Active Directoryユーザ/グループIDでログインする

ログインパスワード

検査対象設定

検査パス *

例: ¥¥fileserver¥share¥
¥¥localhost¥share1¥

戻る 次へ

5. 検査を実行するため、対象となるすべてのフォルダーとファイルにアクセスできる管理者の [アカウント名] と [パスワード] を入力して、[追加] をクリックします。

NEC Information Assessment System

Menu

- グループ
- エージェント
- スケジュール
- システム管理者
- ファイル種別
- アラーム
- 詳細設定
- メールサーバ
- メモリDB退避
- エイリアス
- 統計履歴

グループ登録

基本情報 > アカウント情報 > 詳細情報 > 実行可能時間帯情報

アカウント情報

接続対象パス *

例: ¥¥fileserver¥share¥
<デフォルトアカウント>

アカウント名 *

例: administrator
administrator

パスワード *

例: @dMin1!
●●●●●●●●

ドメイン名

例: domain.local、または、DOMAIN

追加
更新
削除
リセット

設定済みアカウント一覧

編集/削除	接続対象パス	アカウント名	ドメイン名

接続確認

戻る 次へ

6. [設定済みアカウント一覧] に入力したアカウントが表示されますので、[次へ] をクリックします。なお、本画面で[接続確認] をクリックすると、設定したアカウント情報が正しいか確認することができます。設定したアカウント情報で接続に成功すると“全検査パスの接続確認に成功しました。” の画面が表示されますので、[閉じる] をクリックします。接続に失敗した場合は、アカウント情報を再度更新してください。

7. 下記表を参照し、運用に応じて必要な設定を入力して [次へ] をクリックします。

設定項目	設定内容
グループ最大容量 (必須)	グループで想定している最大使用容量を指定します。この値に対する実際の使用量で使用率(%) を算出します。 複数のグループを設定する場合、各グループの最大容量の合計を物理ボリュームのサイズとすることで、実際の使用率(%)が算出できます。
検査パス最大容量	検査パスで想定している最大使用容量を指定します。この値に対する実際の使用量で使用率(%) を算出します。 複数の検査パスを設定する場合、各検査パスの最大容量の合計をグループの最大容量とすることで、整合性のある使用率(%)が算出できます。
使用量閾値	グループおよび、検査パスの最大容量に対する閾値をパーセンテージで指定します。

検査除外パス	設定したパス配下は検査、および整理の対象から外します。
リンク切れショートカット削除	検査時にリンク先が存在しないショートカットファイルを自動削除します。
管理者メールアドレス	上記で指定した閾値超過時などにメールするグループ管理者のアドレスを指定します。
グループメンバーメールアドレス	上記で指定した閾値超過時などにメールするグループメンバーのアドレスを指定します。

【補足】

メールサーバの設定方法については、【NIAS (機能制限ライセンス) 利用ガイド 2. 初期設定：メールサーバ設定を行う】をご覧ください。

【注意】

アーカイブ領域、ゴミ箱パス、移動元戻し (アーカイブ/ゴミ箱)、自動削除 (ゴミ箱のみ) は機能制限ライセンスでは、設定しても利用できません。

ホーム 検索 整理依頼 自動整理 アクセス権 ログ 設定 ログアウト

NEC Information Assessment System

Menu

- グループ
- エージェント
- スケジュール
- システム管理者
- ファイル種別
- アラーム
- 詳細設定
- メールサーバ
- メモリDB退避
- エイリアス
- 統計履歴
- ログ採取
- 表示項目
- クラウド連携

グループ登録

基本情報 > アカウント情報 > 詳細情報 > 実行可能時間帯情報

容量・閾値設定

グループ最大容量 * GB 最大容量取得

検査パス最大容量 検査パス 最大容量
¥¥localhost¥soumu¥ GB

使用量閾値 90 %

検査対象設定

検査除外パス

リンク切れショートカット削除 ☐

検査領域設定

アーカイブ領域 ☐ 接続確認

ゴミ箱パス ☐ 接続確認

移動元戻し ☐

自動削除 (ゴミ箱のみ) ☐ 日経過後に自動削除
※未設定の場合は自動削除しません

メール/メンバー設定

管理者メールアドレス

グループメンバーメールアドレス

戻る 次へ

8. NIAS の検査が実行可能となる曜日は“全曜日”、実行可能となる時間帯は“終日”、検査速度は“高”で設定済みになっているので、このままで良い場合は[登録]を押下してください。変更する場合は[設定済み実行可能時間帯一覧]で[編集/削除]のラジオボタンを有効にして、[実行可能時間帯設定]にて変更を行い、[更新]を押下した後に[登録]を押下してください。実行可能時間帯の詳細については、【[2.4.3 実行可能時間帯と検査スケジュール](#)】および【[2.4.3.1 実行可能時間帯を設定する](#)】をご覧ください。

ホーム 検索 監視情報 自動監視 アクセス権 ログ 設定 ログアウト

NEC Information Assessment System

Menu

- グループ
- エージェント
- スケジュール
- システム管理者
- ファイル種別
- アラーム
- 詳細設定
- メールサーバ
- メモリDB遡追
- マイアソ

グループ登録

基本情報 > アカウント情報 > 詳細情報 > 実行可能時間帯情報

実行可能時間帯設定

実行日 * ☐ 月曜日 ☐ 火曜日 ☐ 水曜日 ☐ 木曜日 ☐ 金曜日 ☐ 土曜日 ☐ 日曜日

実行時間帯 * ☒ 終日
☐ 0時 0分 ~ 0時 0分

検査速度 * 高

追加
更新
削除

設定済み実行可能時間帯一覧

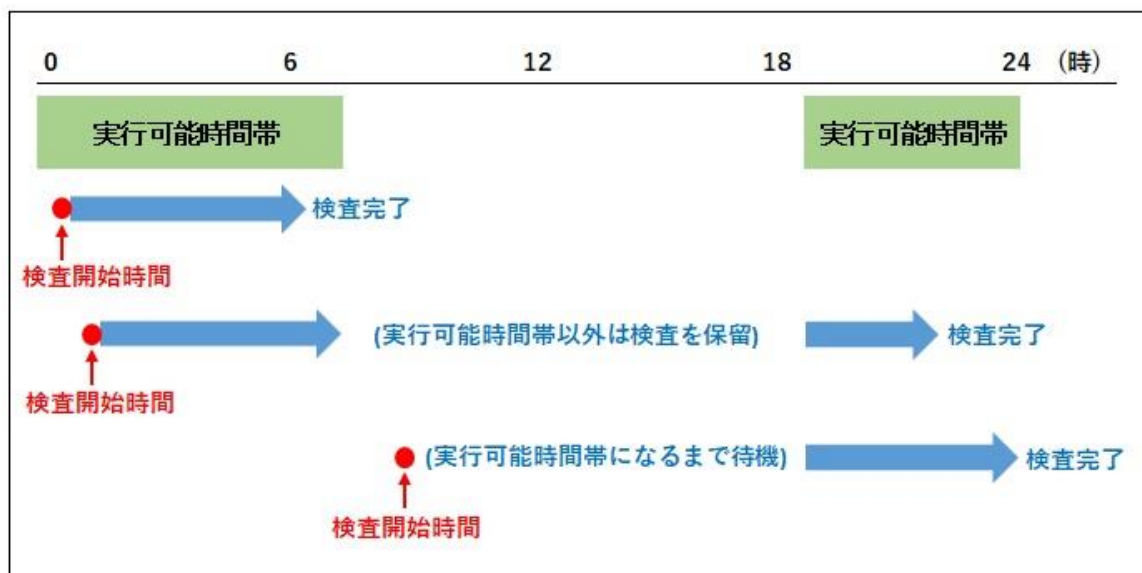
編集/削除	実行日	実行時間帯	検査速度
<input type="radio"/>	月・火・水・木・金・土・日曜日	終日	高

戻る 登録

2.4.3 実行可能時間帯と検査スケジュール

NIAS の検査を実行するにあたり、グループ毎に検査の実行が可能な時間帯 (実行可能時間帯) と検査スケジュールを設定します。検査は、実行可能時間帯でのみ実行されますので、お客様の基本的な運用スケジュールに合わせて実行可能時間帯を設定してください。開始した検査が実行可能時間帯内に完了しなかった場合は、検査が保留され、次の実行可能時間帯に再開されます。また、設定した実行可能時間帯外に検査スケジュールを設定した場合、実行可能時間帯になるまで検査は待機されます。

検査実行のイメージ (例)



2.4.3.1 実行可能時間帯を設定する

NIAS の検査を実行できる時間帯として、検査曜日や検査時間帯、検査速度を設定できます。ファイルサーバーの運用状況に応じて、実行可能時間帯を設定してください。以下に、実行可能時間帯を設定する手順を説明します。

1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックします。

2. 設定したいグループの [編集] をクリックします。

3. [実行可能時間帯情報] のタブを選択します。下記表を参照し、実行日、実行時間帯、および検査速度の設定を行います。

設定項目	設定内容
実行日	検査を実行可能な曜日を設定
実行時間帯	終日、または〇時〇分～〇時〇分を選択 (5 分単位)
検査速度	「高」または「低」を選択

2.4.3.2 検査スケジュールを設定する

NIAS 管理画面で参照できる見える化データは、この検査スケジュールの実行結果です。お客様の要求レベルに応じて、検査の頻度を決定してください。

【注意】

- 検査中は、CPU 負荷が 20～30%程度上がり、検査対象のディスクに負荷がかかります。
- 検査スケジュールの開始時刻に OS が起動していない場合、その検査はスキップされます。
- 検査結果はデフォルトで 36 回分が保存され、それ以前の検査結果は削除されます。

1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックして、左画面の [スケジュール] をクリックします。
2. 以下の画面で、検査スケジュールの範囲を選択します。複数のグループが存在する場合、[検査スケジュール (全グループ)] を選択すると、全てのグループに対して同じスケジュールを設定できます。[検査スケジュール (グループ単位)] を選択するとグループ単位でスケジュールを設定できます。



3. 設定したいグループの [編集] をクリックします。

4. 下記表を参照し、開始日時と更新種別を設定して、[更新] を押下します。なお、全グループに対する検査スケジュールを設定する場合、[設定済み検査スケジュール(全グループ)] 配下で、“フルスキャン” または “クイックスキャン” を選択します。

設定項目	設定内容
開始日時	以下の 5 パターンから選択し、開始日時を設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年単位 (毎年) ・ 月単位 (1 ヶ月毎～12 ヶ月毎) ・ 週単位 (1 週間毎～4 週間毎の○曜日) ・ 日単位 (毎日～31 日毎) ・ 一回のみ
更新種別	フルスキャン、またはクイックスキャンを選択

【補足】

フルスキャン と クイックスキャン の違いは、以下の通りです。

- ・ フルスキャン

NIAS に必要な全ての情報を取得します。

- ・ クイックスキャン

フルスキャンのうち、以下の情報取得を省略します。そのためフルスキャンに比べて検査時間の短縮 (約 40%) が期待できます。ただし、初回検査の場合は、必ずフルスキャンで実行されます。

- ファイル・フォルダーのアクセス権情報
- ファイル・フォルダーの所有者情報
- ファイルのファイル種別情報

2.5 ウイルス対策ソフトの除外設定を行う

iStorage NS 上にて、ウイルス対策ソフト (OS 付属の Windows Defender、もしくは、他社のウイルス対策ソフトウェア製品) を使用する場合、ご利用のウイルス対策ソフトの除外フォルダーとして、下記 2 つのフォルダーを設定してください。

- NIAS のインストール先フォルダー : C:\Program Files (x86)\NEC\NIAS
- NIAS のデータ格納先フォルダー : C:\NEC\NIAS_DB

除外設定を実施していない場合、NIAS の検査が正常に動作しない可能性、および、正常に動作する場合でも所要時間が長くなる可能性があります。

3. NIAS を運用する

3.1 既存のグループに共有を追加するには

既存の NIAS グループに共有を追加する手順を説明します。例として、下記では既存の D グループに新しい共有 (kyuyo) を追加する手順を説明します。なお、グループに登録済みの配下に位置する共有を登録すると、NIAS で算出する容量の整合性が保てませんので注意が必要です。



1. NIAS 管理画面にログインし、[設定] のタブをクリックします。
2. 設定を変更したいグループの [編集] をクリックします。

3. [検査パス] の入力フィールドに追加したい共有を UNC パスで入力し、[更新] をクリックします。

The screenshot shows the 'グループ編集' (Group Edit) interface. It includes tabs for '基本情報' (Basic Information), 'アカウント情報' (Account Information), '詳細情報' (Detailed Information), and '実行可能時間帯情報' (Executable Time Zone Information). The 'グループ情報' (Group Information) section contains fields for 'グループ名' (Group Name), 'ログインID' (Login ID), and 'ログインパスワード' (Login Password). The '検査対象設定' (Check Target Setting) section features a text area for '検査パス' (Check Path) with a list of UNC paths: '\\filesrv\\share', '\\localhost\\share1', and '\\localhost\\kyuyo'. The '更新' (Update) button at the bottom right is highlighted with a red box.

4. グループ情報の編集を確認するメッセージが表示されるので、[OK] をクリックします。

3.2 新しいグループを作成し共有を追加登録するには

新しいグループを作成し、共有を登録する手順については本書の【[2.4.2 グループを作成し共有を登録する](#)】をご覧ください。

3.3 検査のスケジュールを変更するには

NIAS 検査の実行が可能な時間帯 (実行可能時間帯) を変更する場合は、本書の【[2.4.3.1 実行可能時間帯を設定する](#)】をご覧ください。NIAS の検査スケジュールを変更したい場合は、本書の【[2.4.3.2 検査スケジュールを設定する](#)】をご覧ください。

3.4 検査対象を増やすには

NIAS の新規構成時、および、検査対象を増やす場合は、以下について確認し、必要に応じて対応してください。

- 搭載メモリ量
検査対象のファイル数に応じて、使用メモリ量も増加します。考慮すべき必要メモリ量については、本書の【[1.3.2 必要なメモリ量](#)】をご覧ください。
- Cドライブのディスク使用容量
検査対象のファイル数に応じて、Cドライブの使用ディスク容量も増加します。考慮すべきディスク容量については、本書の【[1.3.1 ディスク使用量](#)】「検査対象管理データ」をご覧ください。
- 検査スケジュール/実行可能時間帯
検査対象のファイル数に応じて、検査の所要時間が長くなります。検査の所要時間は、フルスキャン実行時、100 万ファイルに対して 1 時間を目安に調整してください。変更手順については、本書の【[2.4.3.1 実行可能時間帯を設定する](#)】 および 【[2.4.3.2 検査スケジュールを設定する](#)】をご覧ください。
- シャットダウンのタイムアウト時間
検査対象のファイル数に応じて、シャットダウン時に NIAS の管理データをディスクに書き出すための時間が長くなります。このため、ファイル数が多い場合でも NIAS の管理データが破損しないようシャットダウンスクリプトのタイムアウト時間を延長する必要があります。また、合わせて OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間の見直しも必要です。変更手順については、本書の【[3.5 シャットダウンのタイムアウト時間を変更するには](#)】をご覧ください。

【注意】

シャットダウンのタイムアウト時間を延長すると、場合によっては、シャットダウン完了までの時間が長くなるため、計画運用等に影響を与えないか検討してください。

3.5 シャットダウンのタイムアウト時間を変更するには

以下に、シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間と、OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間を変更する手順を説明します。

下記の手順では、安全に停止できるように最大約 **540** 分まで待つようにタイムアウト時間を延長しています。

1. シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間を変更します。iStorage NS に管理者権限でサインインし、スタートアップメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、"gpedit.msc" を入力して [Enter] キーを押下します。
2. [コンピューターの構成] - [管理用テンプレート] - [システム] - [スクリプト] にある [グループポリシースクリプトの最大待機時間を指定する] をダブルクリックします。
3. [有効] を選択して [時間 (秒)] の値を、**32000** 秒(約 **533** 分)に変更し、[適用] をクリックして [OK] をクリックします。OS の既定値 (**600** 秒=**10** 分)に戻す場合は、[未構成] を選択し、[適用] をクリックして [OK] をクリックします。
4. 次に、OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間を変更します。スタートアップメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、"regedit"を入力して [Enter] キーを押下します。
5. レジストリエディターが起動したら、以下にアクセスします。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥gpsvc
6. 右画面の [PreshutdownTimeout] をダブルクリックします。
7. 編集ダイアログが開いたら、値の表記を **10** 進数に変更します。
その後、ミリ秒単位で **32400000** と入力し(**540** 分)、[OK] をクリックします。
OS の既定値に戻す場合は、**900000** ミリ秒(**15** 分)を入力します。

【注意】

OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間は、シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間より長く設定する必要があります。

8. 変更を反映するため、OS を再起動します。

3.6 Administrator のパスワード変更またはコンピューター名の変更を NIAS に反映するには

iStorage NS のビルトイン Administrator のパスワードを変更した場合、またはコンピューター名を変更した場合は、NIAS の設定を変更してください。詳細な手順については、本書の【[2.4.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】をご覧ください。

3.7 ビルトイン Administrator のユーザー名を変更、またはアカウントの無効化を実施した際の対処

iStorage NS の出荷時設定では、NIAS のサービスを起動するユーザー名として、ビルトイン Administrator のユーザー名を設定しています。このため、Administrator のユーザー名を別の名前に変更、または、Administrator アカウントの無効化を実施すると、NIAS サービスの起動ユーザーとして設定していたユーザー名が存在しなくなるため、下記の 4 つのサービスの起動が失敗するようになります。

サービス名	表示名
Information Assessment System Agent Service	IAS_AGENT
Information Assessment System Booster Service	BST_WINSVC
Information Assessment System Scheduler Service	IASSCHEDULER
Apache Tomcat 9.0 Tomcat9	Tomcat9

サービス起動の失敗を回避するため、上記 4 つのサービスを起動するユーザー名を変更してください。以下に、名前を変更した Administrator ユーザーにて NIAS を実行する方法と、新規ユーザーにて NIAS を実行する方法について説明します。ビルトイン Administrator ユーザーの名前を変更した際は、どちらの方法も実施可能です。ビルトイン Administrator を無効化した際は、後者の方法を実施してください。

3.7.1 名前を変更した Administrator ユーザーにて NIAS サービスを実行する方法

ビルトイン Administrator のユーザー名を変更した場合に、変更後の Administrator ユーザーの権限にて NIAS サービスを実行する場合は、下記手順 1 と手順 2 を実施し、NIAS サービスの実行ユーザー名として、変更後のユーザー名を指定してください。

□手順 1： 各サービスのアカウント/パスワード変更

1. iStorage NS のデスクトップ上のアイコンから[管理者メニュー]を起動し、一覧から[サービス]ツールを起動します。
2. サービスの一覧より、"Apache Tomcat 9.0 Tomcat9" をダブルクリックします。
3. サービスのプロパティが表示されたら、[ログオン] タブをクリックします。
4. "アカウント" 欄の [参照] ボタンをクリックします。
5. 起動した [ユーザーの選択] 画面で、[場所の指定] に自コンピューターの名前が表示されていることを確認します。(ドメイン環境の場合、本欄にドメイン名が表示されていたら、[場所] ボタンをクリックし、自コンピューターを選択してください)
6. [選択するオブジェクト名を記入してください] 欄に、ビルトイン Administrator アカウントのリネーム後の名前を記入し、[名前の確認] ボタンをクリックします。
7. [選択するオブジェクト名を記入してください] 欄に記入した名前が、
＜自コンピューター名＞¥＜記入した名前＞
となり、アンダーバーが表示されていたら、名前が確認済みとなりますので、[OK] をクリックします。
8. サービスのプロパティの [アカウント] 欄が、「¥＜記入した名前＞」となっていることを確認します。
9. [パスワード] 欄と、[パスワードの確認入力] 欄に、指定したユーザーのパスワードを入力します。
10. [OK] をクリックします。
11. 上記 2.～10.と同様の手順を、下記 3 つのサービスに対しても実施してください。

Information Assessment System Agent Service

Information Assessment System Booster Service

Information Assessment System Scheduler Service

以上で、サービスのアカウント名とパスワード変更は完了です。

※サービスの開始は、ここでは実施しません。手順 2 で実施します。

□手順 2： 各サービスの開始

[サービス] ツールにて、下記の①～④の順番で、サービス名を右クリックし、[開始] をクリックしてください。サービス開始が成功すると、各サービスの [状態] 欄に「実行中」と表示されます。

- ① Information Assessment System Agent Service
- ② Information Assessment System Booster Service
- ③ Information Assessment System Scheduler Service
- ④ Apache Tomcat 9.0 Tomcat9

なお、サービス開始に失敗し、「エラー1069:ログオンに失敗したため、サービスを開始できませんでした」というエラーメッセージが表示される場合は、該当サービスのパスワードの再入力（前述の手順 1 の 9. を実施し、再度サービス開始を実施してください）。

以上の手順で、起動が失敗していた NIAS の 4 つのサービスが起動できたら、対処完了です。

また、今後の運用において、名前を変更した Administrator ユーザーのパスワードを変更した際には、本書【[2.4.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】の手順にて NIAS サービスにパスワード変更を反映してください。

3.7.2 新規ユーザーにて NIAS を実行する方法

NIAS サービスの実行用として、新規のユーザーを作成する場合は、ローカル Administrators グループに属する新しいユーザーアカウントを作成し、パスワードの設定を行ってください。アカウントの [パスワードを無期限にする] の設定は、お客様のセキュリティポリシーに応じて有効化を検討してください。新アカウント名とパスワードを使用して、前項の手順 1 と手順 2 と同様の手順にて、NIAS の 4 つのサービスの実行ユーザーとして、新しく作成したユーザーアカウント名とパスワードを設定してください。

新規作成したアカウントは、管理者権限を持つアカウントとなりますので、お客様のセキュリティポリシーに沿ったパスワード管理を行ってください。なお、[パスワードを無期限にする] を有効にしていない場合にパスワードが期限切れになると、本章冒頭に記載した 4 つのサービスの起動が失敗します。

また、今後の運用において、NIAS サービス実行用ユーザーアカウントのパスワードを変更した際には、本書【[2.4.1 iStorage NS の初期設定を NIAS に反映する](#)】の手順にて NIAS サービスにパスワード変更を反映してください。

3.8 NIAS のサービスを無効化するには

以下に、NIAS のサービスを無効化する手順を説明します。

1. 管理者権限のコマンドプロンプトを起動します。

2. 以下のコマンドを実行します。

C:\NEC\iStorageNS\nias\NIAS 無効化.bat

3. 処理が完了したことを示すメッセージを確認し、コマンドプロンプト画面を閉じます。

また、必要に応じて、デスクトップ上の **NIAS** のショートカットアイコン (**NIAS** 管理画面、ライセンスツール) を手動で削除してください。なお、これらのショートカットアイコンを削除すると、サービスを有効化しても作成されませんのでご注意ください。

3.9 NIAS のサービスを有効化するには

以下に、NIAS のサービスを有効化する手順を説明します。

1. 管理者権限のコマンドプロンプトを起動します。

2. 以下のコマンドを実行します。

C:\NEC\iStorageNS\nias\NIAS 有効化.bat

3. 処理が完了したことを示すメッセージを確認し、コマンドプロンプト画面を閉じます。

なお、NIAS のサービスを有効化すると、OS のサインイン時に **NIAS** 管理画面を自動起動するショートカットが出荷時状態で作成されます。**NIAS** 管理画面のログイン ID (**NIAS** ローカル ID) または、パスワードを出荷時状態から変更していた場合、自動起動した **NIAS** 管理画面がログイン失敗となります。そのため、【**NIAS (機能制限ライセンス)利用ガイド** 付録 D. **NIAS** のスタートアップ起動】を参照して変更していたログイン ID/パスワードを自動起動するショートカットに設定してください。

3.10 NIAS をアンインストールするには

NIAS と関連モジュールのアンインストール、および OS 設定の変更手順を説明します。

【注意】

一度 NIAS をアンインストールすると、バックアップ DVD から OS を再インストールする以外に、NIAS を再インストールする方法はありません。

なお、NIAS サービスが有効である場合は、以下の手順で NIAS サービスを無効化後、アンインストールしてください。

3.10.1 NIAS サービスの無効化

以下の手順で、NIAS サービスを無効化します。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、管理者権限のコマンドプロンプトを起動します。
2. 以下のコマンドを実行します。
C:¥NEC¥iStorageNS¥nias¥NIAS 無効化.bat
3. 処理が完了したことを示すメッセージを確認し、コマンドプロンプト画面を閉じます。

3.10.2 NIAS のアンインストール

以下の手順に従い、NIAS をアンインストールしてください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、管理者メニューの [プログラムと機能] をクリックします。
2. 表示されたプログラムの中から、"NEC Information Assessment System <バージョン番号>" を右クリックし [アンインストール] を選択します。
3. 画面に従ってアンインストールします。インストーラーが開始してしばらく待つと、PostgreSQL サーバーのアンインストール確認のポップアップが表示されますので、[はい] をクリックします。

4. アンインストールが完了したら、[閉じる] をクリックします。

【補足】

NIAS のアンインストールに伴い、Oracle JDK 21 も同時にアンインストールされます。

【注意】

[プログラムと機能] の一覧から PostgreSQL が削除されるまでに、数分程度の時間を要することがあります。

3.10.3 Apache Tomcat のアンインストール

以下の手順に従い、Apache Tomcat をアンインストールしてください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインして、管理者メニューの [プログラムと機能] をクリックし、表示されたプログラムの中から [Apache Tomcat 9.0 Tomcat9 (remove only)] を右クリックして [アンインストールと変更] を選択します。
2. Apache Tomcat の画面に従い、アンインストールを実行します。
3. アンインストールが完了したら、[Close] をクリックします。

3.10.4 NIAS シャットダウンスクリプトの削除

以下の手順に従い、NIAS シャットダウンスクリプトを削除してください。

1. iStorage NS に管理者権限でサインインし、スタートアップメニューから、[ファイル名を指定して実行] を選択し、"gpedit.msc"を入力して [Enter] キーを押下します。
2. [ローカル コンピューター ポリシー] – [コンピューターの構成] – [Windows の設定] – [スクリプト (スタートアップ/シャットダウン)] を選択し、右画面の [シャットダウン] をダブルクリックします。
3. [シャットダウンのプロパティ] のファイル一覧から "pgshutdown.cmd" を選択し、[削除] をクリックします。選択されたファイルが一覧から削除されたことを確認して、[OK] をクリックします。

3.10.5 シャットダウンのタイムアウト時間を OS の既定値に変更

シャットダウンスクリプトのタイムアウト時間と、OS のプレシャットダウンのタイムアウト時間の値を OS の既定値から変更していた場合、元に戻してください。詳細な手順は、本書の【[3.5 シャットダウンのタイムアウト時間を変更するには](#)】をご覧ください。なお、NIAS を使用するための設定を一度も行っていない場合は、本手順は不要です。

4. 困ったときは

4.1 FAQ

以下によくある問い合わせを記載します。弊社 PP・サポートサービス（有償）のサポートポータル ホームページでも、[サポート FAQ] にて随時公開していますので、こちらをご覧ください。

質問	iStorage NS にログオン時に、NIAS の管理画面が自動起動するのをやめたい
回答	<p>iStorage NS に管理者権限でログオンし、下記の手順を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. エクスプローラーを起動し、アドレスバー（パスを入力する欄）に、下記のパスを入力します。 C:¥ProgramData¥Microsoft¥Windows¥Start Menu¥Programs¥StartUp ※注：エクスプローラー上で "C:¥" を表示しても、配下の "ProgramData" フォルダは隠しフォルダのため表示されません。2. 上記 1. のパス配下に存在する "NIAS 管理画面.url" という名前のインターネットショートカットを削除、または、別のフォルダに移動すると、次回ログオン時から NIAS 管理画面が自動起動しなくなります。 ※注：削除すると、後で元に戻す方法がありませんので、元に戻す可能性がある場合は他の任意のフォルダに移動し、移動先フォルダ名を忘れないようにしてください。

質問	<p>OS のサービスの一覧に、下記 3 つのサービスがありますが、[スタートアップの種類] が "無効" になっています。これは、正常でしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none">・ Information Assessment System Migration Scheduler Service・ Information Assessment System Monitor Gui Service・ Information Assessment System Monitor Log Service
回答	NIAS のライセンスが "機能制限ライセンス" の場合、該当サービスを使用しません。このため、出荷時点からサービスは無効になっており、正常です。

4.2 トラブルシューティング

事象	<p>以下の 4 つのサービスが起動しない。</p> <ul style="list-style-type: none">• Information Assessment System Agent Service• Information Assessment System Booster Service• Information Assessment System Scheduler Service• Apache Tomcat 9.0 Tomcat9
対処	<p>iStorage NS の出荷時に、上記 4 つのサービス開始時の資格情報（ユーザー名とパスワード）として、ビルトイン Administrator のユーザー名、および、出荷時の初期パスワードを設定済みとしています。このため、下記①から③の場合に、サービスの起動が失敗するようになります。</p> <ol style="list-style-type: none">① Administrator ユーザーのパスワードを変更した② Administrator ユーザーのユーザー名を変更した③ Administrator ユーザーのアカウントを無効化した <p>対処は下記のとおりです。</p> <p>上記①の場合、【3.6 Administrator のパスワード変更またはコンピューター名の変更を NIAS に反映するには】を参照してください。</p> <p>上記②③の場合、【3.7 ビルトイン Administrator のユーザー名を変更、またはアカウントの無効化を実施した際の対処】を参照してください。</p>